

Title	商品先物市場におけるヘッジングについて-時系列モデル適用の試み-
Sub Title	
Author	乗松茂樹(Norimatsu, Shigeki) 関谷章
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0097

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 乗松茂樹

主査 関谷 章 助教授

副査 鈴木 貞彦 助教授

所属ゼミナール 関谷 章 研

太田 康信 助教授

商品先物市場におけるヘッジングについて (時系列モデル適用の試み)

商品先物市場を利用したヘッジングは原料価格変動の減小という観点から広く行なわれている。しかし近年になって商品の価格変動が激しくなり、単なる完全ヘッジのみでは価格変動巾減小という当初の目的を達成することが困難となってきた。

このためある程度将来の価格変動を予測することが必要となり、実務家間で各種の手法が用いられている。

しかし、これらの手法には、時系列の性質のとらえ方や、価格形成要因の解釈について見るべき点が多いものの、理論的根拠があいまいであり、また主観的判断の入りこむ余地が多い。

また、商品先物市場における価格予測の可能性を疑問視する説もある。

そこで、本研究においては、時系列分析を応用して価格の分析を行い、予測の可能性を探るとともに、時系列モデルを用いた予測を行い、その予測精度について在来の手法との比較を行った。

その結果、急激な変化に急速に追従でき、また経験者の判断を利用できる Bayesian Model の有効性が示唆される。